

さつま町 観光未来計画 概要版

発行：さつま町商工観光 PR 課 さつま町観光未来研究室
デザイン：一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab

さつま町では、第2次さつま町総合振興計画において、「ひと・まち・自然 みんなで紡ぐさつま町」という将来像を描き、「価値ある資源が活かされるまち」というゴールを設定して様々な施策を描いています。

そのなかでは、施策として「人と人がふれあう観光のまちづくり」を標榜し、「地域資源を生かした観光のデザイン」「つながり、おもてなしのまちづくり」を行うこととしています。

この計画は、町民有志と役場職員が月に1回の会合を重ねる中で、理想の未来を描き、そのための最初の一步を踏みだした協働と実践の記録として、そのプロセスと議論の成果を取りまとめたものです。

多くの皆様の目に触れ、これからの観光を考える道しるべとして、手に取っていただけますと幸いです。

01 自分たちで まちの未来を考える

今回のさつま町観光未来研究室をコーディネートしている一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab が大事にしている考え方や、まちづくりのポイントについて整理しました。

「消費者＝地域の人口」が大幅に減る中で、当然ながら税収は減り、地域経済の基盤強化を行政に任せるとの限界がきています。ここで大切なことは、地域の暮らしを自分たちで守り、育てるために、行政と民間の役割分担を考えることが必要になります。

さつま町 観光未来研究室 コーディネーター

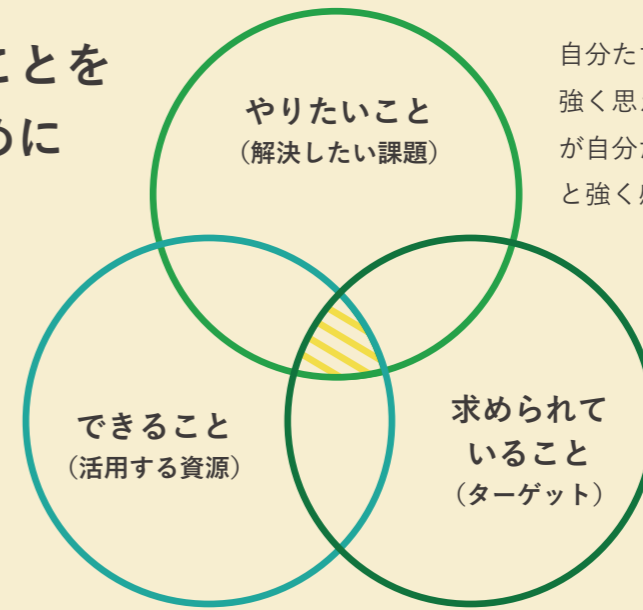


一般社団法人 鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab 理事長 永山 由高

Ten-Lab とは、鹿児島に「対話と挑戦の協働文化をつくる」をミッションに、鹿児島県内各地の地域づくりのサポートや、県内最大の対話と挑戦の場「鹿児島未来170人会議」のコーディネート等も行っています。

自分たちで出来ることを 自分たちでするために 大切にしたい 3つの要素

本業につながること。自分の強みを発揮できること。そのテーマに強みを発揮する仲間がいること。



自分たちが「やってみたい」と強く思えること。その取り組みが自分たちの地域を豊かにすると強く感じられること。

その取り組みを求める人が具体的にわかっていること。その取り組みがないときに困っている人がいること。

地域で何かを始めるときの 困りごとと解決策！

参加者が集まらない 活動経費が確保できない 「あいつがやるならやらない」という人 イベントを初めても一回限りで終わる 足をひっぱりあう 言い出しっぺが責任を取るという発想 など

「やりたい」のエネルギーを最大に使う 「やわらか発言」を意識する 小さく始めて大きく育てる

心からわくわくできる、やりたいと情熱を注げるエネルギーがあればできることは広がっていきます。また地域の皆さんが「やりたいこと」を語りあえる場をつくることも大切。まだやりたいことがない人は、やりたいことがある人の応援に回ることから始めましょう！

誰かのアイデアに対して「そんなことでできるわけないだろ、馬鹿野郎！」なんて言われたら相手はきっと萎縮してしまいます。「ちょっと難しいと思うけどどうかな？」とやわらかく言葉を返してあげるだけで安心して話せる対話の場が守られます。

テナラボでは「やりたいこと・できること・求められていること」その3つが重なることでより良いプロジェクトづくりにつながることをお伝えしています。とはいえ、最初から3拍子そろえることはなかなか難しいと思います。まずは自分でできることから小さく始め、時間をかけて大きく育てていきましょう。

02 観光未来研究室 ワークショップ

さつま町観光未来研究室とは？

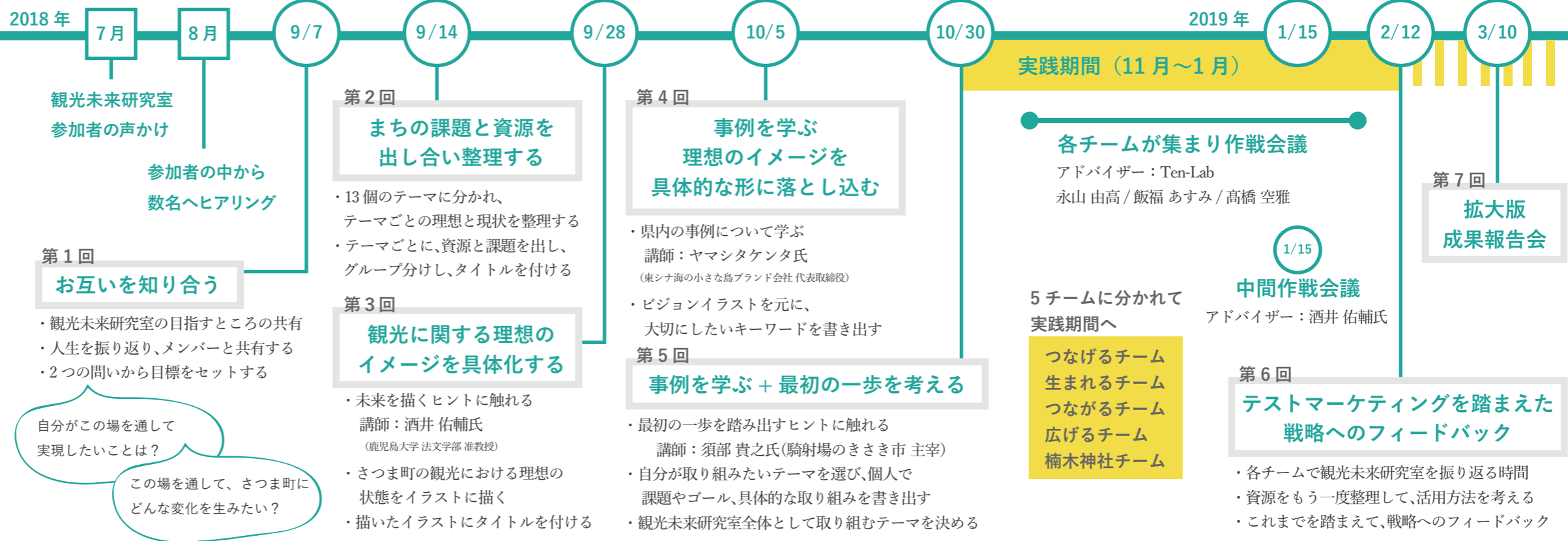
「観光未来計画」をさつま町内の行政職員や会社員、観光に携わっている人全員でつくり、「オールさつま」でさつま町をPRしていく官民連携の推進体制を築いていく場です。

目的

観光および物産に関する戦略が共有されていること 連携促進・受け入れ体制の整備・組織をつくること

大事にしたいこと

まちの未来は「いつか誰かに変えてもらう」のではなく、「自分自身が最初の一步を踏み出す」こと



自分がこの場を通して実現したいことは？ この場を通して、さつま町にどんな変化を生みたい？

03 さつま町の理想の未来

- 観光について -

さつま町の観光について、目指したい理想の未来を考える中で、大きく5つの方向性やキーワードが見えてきました。

埋もれている地域の光（資源）を磨く

癒しだけじゃないさつま町の魅力を引き出す

贅沢な光と癒しを体験できるものへ

人がつながりまち全体がつながる町へ

さつま町を中心として北薩地域がつながる町へ

理想の未来

さつま町観光未来研究室として大切にしたい価値観、キーワード

理想の未来像から、さつま町観光未来研究室全体として目指す北極星となるようなキーワードを言語化していきました。

ホタルが移住したくなるまち

美しい自然を守り続けるまち

理想の未来に向かって私たちができること

すでにあるたくさんの人・資源、それらはどのタイミングでどこでどうつながるかはわからない。しかし、走り続ける人たちがいれば「何かがつながり、何かが生まれる」そんな連鎖が起こること。

さつま町の観光に関わるものが「じょじょん楽しい！」そんな雰囲気・文化を醸成していくこと。

※じょじょん=とても

私たちが担う役割は「癒やしの光を紡いでいく」こと

理想の未来を考えるにあたって「観光とは、光を観ると書きますよね」という話が何度か出てきました。さつま町の観光を考えるにあたって「光」はキーワード。そしていま在るものを観るということ。さつま町で得られる癒しは、温泉、食、人、サービスなどあらゆるものがあるが、それらがさつま町のなかでちゃんとつながっていくこと。それらを「つむいでいく」役割が「さつま町観光未来研究室」なのではないかと考えています。

現在

04 ビジョンを実現するための最初の一步

テストマーケティング

ビジョン実現のために、いまできることは何か。全5チームが作戦会議を通して、最初の一步を踏み出しました。

つながるチーム

場づくり、連携・協働ができていない、つなげる人がいない、みな他人事になっているという問題

そもそも集まる「場」がないということで、十分に活用できていない宮之城鉄道記念館の2階にある会議スペースの清掃から始めました。

綺麗になった会議室とWi-Fiも通り、会議や活動がしやすい環境となっていました。次のステップとしてはこの場所がちゃんと認知され、つながる場所として機能していくよう具体的な運用に向けて試行錯誤を続けています。

生まれるチーム

さつま町としての資源や日本一がたくさんありすぎて選びきれない・絞り切れない問題

米やタケノコなど、さつま町の「日本一」食材を集めた朝食会を、テスト的にきららの里公園で実施しました。

「無駄に贅沢な朝ごはん」をテーマにさつま町の資源である紫尾山や温泉、自然とともに星空、日の出を楽しむようなコンテンツの観光企画の一つとして提案。実際に体験してみることで課題や活かせる点、継続的な実施のための方法を考える機会となりました。

広げるチーム

さつま町に関するまとまった情報を見つげづらい、検索してもなかなか出てこないなど、情報発信の方法ややり方に関する問題

はじめに、いまある情報発信媒体(さつま町に関する情報を発信している個人、団体等)を洗い出し、それぞれがどういった内容を発信しているのかを調査しました。

実際にSNS等を活用した情報発信を行う方々向けのアンケート(発信にあたっての悩みや気を付けていること等)を実施することで課題が見えてきました。次は実際にさつま町で開催予定のイベントにて、参加者向けのアンケートを実施予定で動いています。

つなげるチーム

さつま町として海外からの観光を考える意識が低く、そもそもターゲットとして受け入れられていない問題

「さつま町在住外国籍の方」向けのアンケートを作成。さつま町の住みやすさ(買い物、交通等)/観光/魅力等について伺いました。

役場に協力をもらうことで、さつま町内の外国人労働者を雇用する事業所に対してのアンケート配付の協力をいただき、集計まで行いました。そこから要望や英語に限らず多言語対応の必要性等が見えてきました。

楠木神社チーム

観光の目玉となるものが地域のなかにちゃんとあることが大切。楠木神社の価値を多くの人がわかっていない問題

宮之城屋地にあり、由緒ある楠木神社。実はその御神体、ものすごい価値があるとされています。御神体の保全のため、まずは清掃活動からスタートしました。

ご神体が祀られている戸の状態を確認したところ、シロアリ被害を発見…！そこからは一気に整備が進むことになりました。

05 さつま町 観光戦略 具体的アクションプラン

2019年4月～2020年3月

1 基盤整備事業

① 拠点整備・運用

- 宮之城鉄道記念館2Fを様々な活動の拠点として整備・運用
 - コワーキング機能
 - パーティ/コミュニティ機能
 - スタジオ機能 ほか

② 運営チームの組織化

- 観光未来研究室の運営メンバーの選定と、運営手法の検討
 - 観光特産品協会との連携の在り方検討
 - 収益事業のテストマーケティングによる「稼ぎ方」検討

③ 情報発信インフラの整備

- 観光未来研究室に関することを中心に、さつま町の観光関連情報を発信、プラットフォームメディアの整備
 - Blogメディアの設計
 - ライターの養成
 - SNSでの情報発信
 - まちづくり企画合同記者発表

2 戦略的プロジェクトの実行支援

① ひかり感じる体験プロジェクト

- 最高の朝体験を生むイベントの企画と運用
 - 朝ごはんプロジェクト
 - 朝マルシェプロジェクト
 - 楠木神社プロジェクト

② 世界の癒しプロジェクト

- 海外からの観光客や移住者がさつま町を満喫できるような環境づくり
 - 在留外国人へのフォロー
 - インバウンド観光客へのサポート

2020年4月～

町民 役場 観光特産品協会 商工団体等

連携

(仮称) さつま町観光未来研究所

- 一般社団法人、NPO法人、合同会社、株式会社等何らかの法人格を有する
- 主要業務は、下記を想定
 1. 観光関連のプロジェクトをすすめる拠点の運用
 2. 観光関連の各団体(役場、協会、商工会など)との連携
 3. 観光関連業務の情報発信
 4. さつま町の多様な主体によるコミュニケーションの機会づくり
 5. さつま町観光戦略ビジョンにおける戦略的プロジェクトの実施主体化

収益モデル

- ① イベント運営
朝ごはんイベント、朝マルシェなどの運用に関する収入
- ② 広報媒体運用
Web媒体を中心としたSNS連携広報による広告費収入
- ③ 拠点運用
会費や利用料収入
- ④ 会費収入
加盟企業や個人からの負担金収入

協会法人化

正式メニュー化

具体的な困りごと

取り組みの内容